

資料(Data)

教育学部就職支援活動に関する満足度比較

——第1期生から第3期生までを対象に——

**Degree of satisfaction comparison about School of
Education employment support service for The third
graduate from The first graduate**

石橋 尚子
Naoko Ishibashi

キーワード：就職支援活動，満足度，教育学部

Key words : employment support service, degree of satisfaction, School of Education

1. 問題の所在と目的

平成23年3月に初めての卒業生(第1期生)を世に送り出して、早2年。本年(平成25年)3月には、第3期生の巣立ちの日を迎えようとしている。本学教育学部の設立準備から関わった者の一人として、就職という出口の状況からこれまでの支援・指導の効果を検証したい。

前回(石橋, 2012)指摘したように、本学部が設立された平成19年4月時点で、すでに県内の教員養成並びに保育士養成の体制は成熟していた。今さら、の感がぬぐえない状況下で産声をあげた私立の教育学部にとって、質の高い優秀な教員・保育士養成を目指すことはもちろんのこと、高い就職率(採用試験合格率)を目指すこともまた学部の存亡をかけた最優先課題であった。そこで、学部内にキャリア教育委員会を設置し、学生委員会(就職委員会を内包)と協働・協調しながら、教職・保育職への就職支援体制を構築していった。それとともに、一般企業への就職希望者の支援については、学内のキャリアサポート課に全面的に協力を頼むこととした。

こうして始まった手探りの就職支援活動ではあったが、学生の努力と就職支援が結実し、第1期生の教職・保育職就職率80.6%、第2期生の教職・保育職就職率84.9%の好実績をあげることができた。第3期生の就職状況もまた、これまでに匹敵する実績を収めつつあるが、最終的な結果は現時点ではまだ不明である。企業等への就職においても、概ね学生の希望を叶えることができているようである。留学・進学する者も微増している。今後もこの就職実績を目標として、さらなる就職支援体制の強化と柔軟な運用が目指されて行くこととなろう。

そこで、本報告では、第1期生を対象に行った教育学部就職支援活動に関する満足度調査(石橋, 2012)をベースに、第2期生並びに第3期生にも同様の満足度調査を実施し、就職支援活動に対するそれぞれの評価を比較検討するものである。彼女たち

の貴重な意見に耳を傾け、今後さらに学生一人ひとりに寄り添った就職支援活動を展開していくために活用していきたい。

2. 調査方法

(1) 調査対象者並びに調査日

第1期生 平成22年度教育学部4年生 140名：2010（平成22）年11月

第2期生 平成23年度教育学部4年生 163名：2012（平成23）年11月

第3期生 平成24年度教育学部4年生 185名：2012（平成24）年10月～11月

(2) 調査手続き

平成22年度4年生（今後第1期生と呼称）と平成23年度4年生（今後第2期生と呼称）については集団で、平成24年度4年生（今後第3期生と呼称）については卒論ゼミ単位で、アンケート調査用紙への回答を求めた。調査項目は以下の4項目である。所要時間は約15分。

- ① 教育学部独自の就職支援全般について、その満足度を問うもの。
- ② キャリアサポート課の就学支援について、ガイダンスを中心にその満足度を問うもの。
- ③ 外部委託就職支援：公務員試験対策講座（オープンカレッジ：有料）について、参加状況と感想を求めるもの。
- ④ これまでの就職活動を振り返っての感想や今後の就職支援についての要望などを、自由記述で求めるもの。

3. 結果と考察

(1) 学部キャリア教育委員会を中心とした教育学部独自の就職支援について

学生が在籍する4年間、教育学部では主に以下の7つの活動を中心に就職支援を行っている。それらは、学生にとって満足できる（役に立つ）ものであり得ていようか。第1期生から第3期生に、7つの就職支援それぞれについての満足度をたずねるとともに、全体としての総合評価を求めた。

その結果、まず全体としてみると、第1期生の総合評価は、「満足：14.2%」「やや満足：62.7%」「やや不満足：22.4%」「不満足：0.7%」。第2期生の総合評価は、「満足：19.4%」「やや満足：65.0%」「やや不満足：14.4%」「不満足：1.3%」。第3期生の総合評価は、「満足：19.6%」「やや満足：69.6%」「やや不満足：10.3%」「不満足：0.5%」。「満足+やや満足」はそれぞれ、第1期生：76.9%、第2期生：84.4%、第3期生：89.2%となり、満足度は比較的高く、しかも向上傾向がみられ、喜ばしい結果と言える。

次に、各就職支援に対する評価を示したものが、Table 1である。卒業期ごとに「満足+やや満足」の値(%)を高い順に並びかえたFig. 1~3と合わせてみると、第1期生では「現場管理職経験者による面接指導と助言(83.6%)」「5回の学力適性調査(83.3%)」「卒論指導教員による指導と助言(76.4%)」の順で満足度が高かった。第2期生では「5回の学力適性調査(87.8%)」「現場管理職経験者による面接指導と助言(85.9%)」「各種採用試験に関する説明や情報提供(81.1%)」の順で、第3期生では「卒論指導教員による指導と助言(95.6%)」「現場管理職経験者による面接指導と助言(88.7%)」「学修・生活指導教員や卒論指導教員以外の教員による指導と助言(83.4%)」の順で満足度が高い結果であった。上位の支援活動に多少の入れ替わりがみられるが、「現場管理職経験者による面接指導と助言」は常に上位に位置づけられ、満足度が高い。第3期生の保育職担当面接指導員の一部に交代があったが、満足度においてその影響はみられない。第2期生で「各種採用試験に関する説明や情報提供」が第三位に位置づけられたのは、第1期生の就職活動を踏まえた各種採用試験情報の入手など、学部独自の就職情報の蓄積と提供が多少とも進んだ結果であろう。また、第3期生において「卒論指導教員による指導と助言」の満足度が卓越している

Table 1 教育学部独自の就職支援に対する満足度比較(数字は%)

支援内容	卒業期	満足	やや満足	やや不満足	不満足
各種採用試験に関する説明や情報提供	1期	20.3	52.2	24.6	2.9
	2期	28.9	52.2	16.4	2.5
	3期	22.9	55.9	20.1	1.1
5回の学力適性調査	1期	24.2	59.1	15.9	7.6
	2期	25.2	62.6	11.0	1.3
	3期	21.2	56.5	20.1	3.4
3年前期までの学修・生活指導教員による指導と助言	1期	15.8	40.3	33.8	10.1
	2期	16.9	47.5	26.9	8.8
	3期	23.0	50.6	19.1	7.3
3年後期からの卒論指導教員による指導と助言	1期	35.7	40.7	20.0	3.6
	2期	31.3	44.4	15.6	8.8
	3期	55.1	40.5	4.3	0
学修・生活指導教員や卒論指導教員以外の教員からの指導と助言	1期	24.1	49.6	21.1	5.3
	2期	23.1	51.9	16.3	8.8
	3期	27.8	55.6	14.8	1.8
現場管理職経験者による面接指導と助言	1期	40.6	43.0	15.6	0.8
	2期	45.0	40.9	11.4	2.7
	3期	43.8	44.9	9.5	1.7
二次三次試験対策	1期	26.3	38.6	25.4	9.6
	2期	32.3	45.1	22.6	0
	3期	29.7	46.5	21.9	1.9

※網掛け部分は、各期で最も「満足+やや満足」率が高かったものである。

ことについては、一つには各卒論指導教員に就職支援のノウハウが理解・蓄積され、学生に還元されるようになってきたこと。二つ目には、この間専任教員の入れ替わりにより若手教員が増えたことから、相談・援助を受けやすい雰囲気が増したこと、といった好ましい要因が考えられるが、ゼミ単位で行った調査方法も一因であろう。

他方、満足度が最も低い支援活動としては、1年次から3年次前期までの相談相手として位置付けられてきた「学修・生活指導教員による指導と助言」で一致していた。現行制度では、学修・生活指導教員が担当学生とかかわりを持つのは、何か問題が起きた場合（例えば、不修学や休・退学への手続き等）への対処的指導が主であり、両者の関係性は日常的には極めて薄い。両者のかかわりを保障し、気軽に相談できる関係性が育まれるような制度や運用上の工夫が必要である。本学部では、学修・生活指導教員を教員免許の取得に絡んで導入された履修カルテの記入者としても位置付けているので、履修カルテを媒介とした学生への支援もその一環として活用されたい。

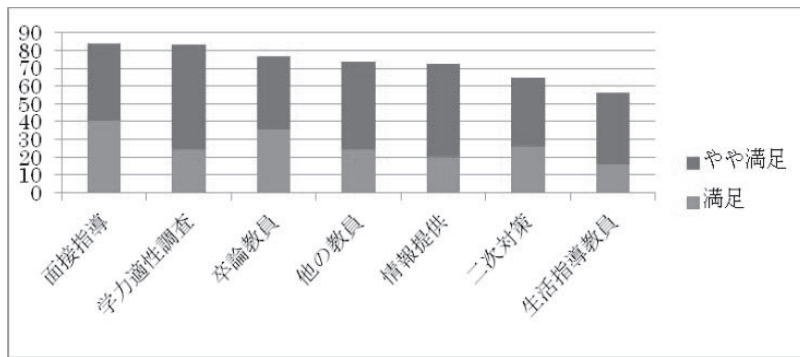


Fig. 1 教育学部の就職支援に「満足」「やや満足」だった者の支援項目間比較（第1期生）

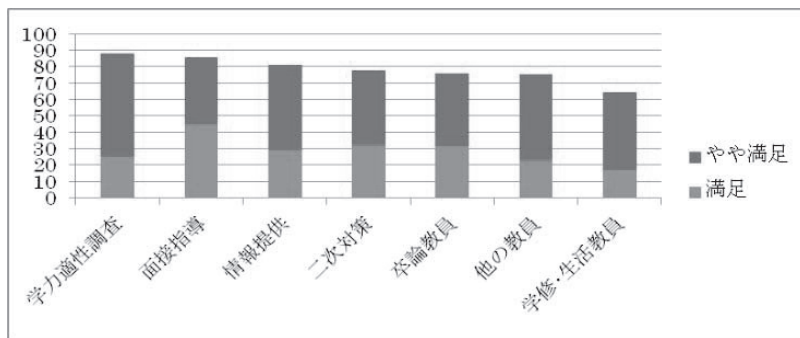


Fig. 2 教育学部の就職支援に「満足」「やや満足」だった者の支援項目間比較（第2期生）

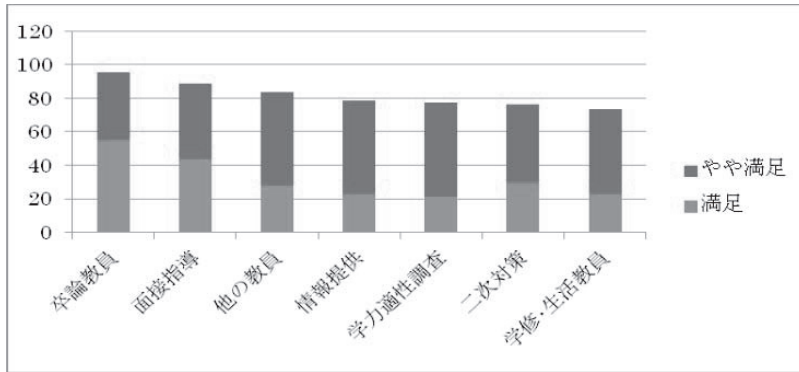


Fig. 3 教育学部の就職支援に「満足」「やや満足」だった者の支援項目間比較 (第3期生)

(2) キャリアサポート課の就職支援について

長年にわたり、全国トップクラスの就職率を支えてきたのが、本学キャリアサポート課である。企業就職支援のための情報提供と指導法には定評があり、各学部の教職課程取得者のための教員採用試験対策にも尽力してきている。しかしながら、保育界・教育界への就職をコアとした教育学部生の就職支援を行うにあたっては、キャリアサポート課としても経験知が充分とは言い難く、第1期生の就職支援では、学生とキャリアサポート課の双方にかなりの戸惑いがあったことは否めない事実であった。その一端を、キャリアサポート課が全学的に開催する「就職ガイダンス」等への参加率の低さが物語っている (Table 2)。

しかしながら、参加した場合の満足度は決して低くはない。第1期生参加者の満足度は全体として、「満足：11.4%」「やや満足：58.1%」「やや不満足：26.7%」「不満足：3.8%」であった。そこで、第2期生へ各ガイダンスへの参加を積極的に促したところ、Table 2 に示すような参加率の向上がみられたとともに、参加した場合の満足度も、「満足：13.6%」「やや満足：65.6%」「やや不満足：18.2%」「不満足：2.6%」と向上している。ガイダンス別にみると、「名古屋市教育委員会の採用試験説明会」と「OG との交流会」のアップ率が顕著である。教育学部にも、第1期生というOG が誕生したことの強み (後輩への影響力) が垣間見られる結果である。

第3期生については、キャリアサポート課の支援全体について、支援授受の有無と満足度をたずねた。その結果、第3期生で「キャリアサポート課の支援を受けた」と認識している者は84.3%で、第2期生よりもさらに増加していた。しかしその場合の満足度は、「満足：23.7%」「やや満足：41.0%」「やや不満足：29.5%」「不満足：5.8%」で、「満足+やや満足」は64.7%となり、満足度は3か年で最も低かった。

キャリアサポート課は、企業就職を視野に入れている教育学部生にとっては一番の拠り所であり、マナー講座などの汎用性は評価されている。教育学部生のための就職支援について、キャリアサポート課と教育学部がさらなる連携とバランスを保ちなが

ら、協議・検討を行っていくことが重要である。

Table 2 キャリアサポート課の就職ガイダンスを中心とした就職支援に対する満足度比較
(数字は%)

ガイダンス等支援内容	卒業期	参加率	満足	やや満足	やや不満足	不満足
1回(就職活動の流れ・自己分析の方法等)	1期	54.8	17.6	58.1	10.8	13.5
	2期	89.1	19.7	65.3	13.6	1.4
2回(試験の種類と対策・SPI等)	1期	46.7	23.8	57.1	9.5	9.5
	2期	68.5	15.9	64.6	16.8	2.7
3回(キャリアサポート活用術・業界研究・夏休みの課題等)	1期	31.9	14.0	62.8	9.3	14.0
	2期	42.2	12.9	62.9	21.4	2.9
4回(マナー講座)	1期	34.1	47.8	34.8	8.7	8.7
	2期	38.8	32.8	56.3	7.8	3.1
5回(内定者報告会)	1期	19.3	30.8	42.3	19.2	7.7
	2期	18.2	34.3	60.0	2.9	2.9
6回(履歴書の書き方等)	1期	26.7	36.1	47.2	8.3	8.3
	2期	38.8	26.6	62.5	9.8	3.1
7回(求人票の見方・学校推薦等)	1期	24.4	24.2	51.5	9.1	15.2
	2期	20.9	23.5	58.8	17.6	0
名古屋市教育委員会の採用試験説明会	1期	32.6	27.3	47.7	18.2	6.8
	2期	28.5	42.6	55.3	2.1	0
OGとの交流会	1期	9.6	15.4	23.1	46.2	15.4
	2期	21.5	45.5	48.5	6.1	0
日常的な相談や就職情報の提供	1期		14.4	45.2	37.5	2.9
	2期		12.8	61.7	20.6	5.0

※網掛け部分は、アップ率が顕著なもの。

(3) 外部委託就職支援：公務員試験対策講座(オープンカレッジ)について

本学エクステンションセンターでは、保育職・教職への就職支援の一環として、2年次から受講可能な、保育士並びに教員採用試験対策のための公務員試験対策講座(オープンカレッジ：有料)を開設している。Table 3は、その3つの講座への第1期生と第2期生の受講状況である。教員採用試験対策の(教職教養)講座の受講率は低下しているが、(小学校全科)講座はほぼ倍増。保育士・幼稚園教員採用試験(教養)講座への受講率も向上している。

第3期生については、3つの講座を一括して受講の有無と満足度をたずねた。その結果、第3期生の受講率は85.4%で、大幅な増加がみられた。受講した場合の満足度は、「満足：26.6%」「やや満足：50.6%」「やや不満足：20.3%」「不満足：2.5%」で、「満足+やや満足」は76.6%となり、満足度は高いといえよう。

第1期生と第2期生から各講座に寄せられた感想は以下の通りである。尚、第3期生の感想としては、(4)の「就職活動の振り返りと今後の就職支援に関する要望」の中

に3件寄せられていた。「公務員対策講座のテキストが公務員（保育職）試験に役立った」「公務員対策講座を受けてよかった。希望通り小学校の先生に決まりました」と満足度の高さを裏付ける記述と、「公務員対策講座を、受験する自治体別にしてほしい。各自治体の試験傾向をつかんだ対策講座を希望します」との要望が出されている。

①教員採用試験（教職教養）対策講座について

第1期生から寄せられた感想は20件で、「講座の内容」「担当講師」「受講時期と時間」に関するものであり、講座内容と担当講師の満足度については、その評価が分かれていた（石橋，2012）。受講時期と時間については、いずれも早すぎるとの指摘を受けていた。

それに対して第2期生から寄せられた感想は27件。「講座の内容：23件」と「運営方法：4件」に関するもので、担当講師への苦情はなくなった。講座の内容については、「ためになった(4)」「勉強の仕方がわかった(4)」「ポイントを押さえた指導だった(3)」など肯定的なものがほとんどであり、講座内容の向上が推察される。運営方法についてはすべて苦情で、「大人数で集中できない(2)」「黒板が見づらい」「3年生からの受講を進めるべき」といったものであった。教室環境の整備が求められる。

②教員採用試験（小学校教諭志望者：小学校全科）講座について

第1期生から寄せられた感想は3件で、いずれも肯定的なものであった。それに対して第2期生から寄せられた感想は9件。「試験に役立った」といった肯定的なものは3件と少なく、「役に立たなかった(4)」「自分でできる内容だった」「教科によって充実度の差が大きい」と内容の改善を求める感想が寄せられている。検討が必要である。

③保育士・幼稚園教諭（教養試験）対策講座について

第1期生から寄せられた感想は11件で、評価は概ね良好だが、「全範囲をカバーできていなかった(2)」などの指摘もあった。それに対して第2期生から寄せられた感想は19件。「勉強になった(5)」「ためになった(5)」「講師の話の内容が良かった：子どもの話が聞けた(2)」など多くが肯定的なものであったが、「保育専門をやってほしい(3)」との要望も寄せられている。学部の保育職関連授業の内容や学部教員による採用試験対策講座の内容などの吟味が必要となろう。

Table 3 外部委託就職支援：公務員試験対策講座の受講率比較（数字は%）

卒業期	教員採用試験 (教職教養)	教員採用試験 (小学校全科)	保育士・幼稚園教員 (教養)
1期	59.3	12.9	21.4
2期	49.4	23.1	25.0

(4) 就職活動の振り返りと今後の就職支援に関する要望

これまでの就職活動を振り返っての感想や今後の就職支援についての要望などを、

自由記述で求めたところ、第1期生71人、第2期生52人、第3期生101人から回答があった。主要な文章を一人一文抜き出し分類したところ、第1期生から寄せられた感想・要望は「教育学部の就職支援体制について」「学部教員の就職支援について」「キャリアサポート課の就職支援について」「その他」の4つに大別された(石橋, 2012)。その4分類に第2期生と第3期生寄せられた感想・要望を分類したものが、Table 4である。

第1期生から寄せられた感想・要望の詳細については前回(石橋, 2012)報告しているので、ここでは第2期生と第3期生分についてその特徴をみてみたい。

【教育学部の就職支援体制について】

まず嬉しかったことは、いずれの学生からも、「大変だったけれど、今までの自分を振り返り、自分を見つめ直す良い機会になった」「たくさんの人との出会いがあって、楽しんで就活できた。希望通りの就職ができて、満足です」「自分のためになることが多く、とても勉強になった」といった自己の成長を実感する声が聞かれたことである。それとともに、「教育学部の教員採用試験対策は手厚いと感じた」「就職対策をしっかりと下さったので、安心して採用試験に取り組めた」「卒論指導教員と面接指導教員の指導は、心の支えでした」「試験間近で不安な時に、先生方からあたたかい言葉をかけてもらって嬉しかった」「親身になって就職相談にのっていただき、ありがたかった」「梶山の教職支援は他大学でも有名です」といった、就職支援を良いものとして受け止めてくれた感想も数多く寄せられている。今後の励みとなろう。ただし、「先生によって意見がバラバラ。踊らされた」「学生が望む就職先の支援をすべきだ。公務員偏重で、私立や他の就職先についてあまりに関心なのはよくない」といった手厳しい意見も寄せられているので、学部としての指導方針等の再確認とすり合わせが必要である。

次に目立ったのは、面接指導に対する感想と要望で、面接指導への感謝とさらなる充実を望む声が数多く寄せられている。面接指導が役に立てば立つほど、「面接指導をもっと、もっとやってほしい」「面接指導にもっと力を入れてほしい」「面接指導は何回やっても心細い」と不安と焦りが吹き出しそうな言葉や、「面接日の設定が採用試験の日程に合っていない。結局一度も受けられなかった」と苦情の言葉が漏れるようである。第3期生から、保育職担当の面接指導員に一部交代があった。前述したように、満足度の点ではその影響は見られなかったが、ここでは少し影響が出ていると言わざるを得ないであろう。第2期生が、保育職担当面接指導員の適切で親身な指導に、感謝の気持ちを述べている一方で、第3期生からは、「面接指導に曖昧なところが多く、困ってしまった」「もっと具体的なアドバイスがほしかった」「面接の時間が限られていた」といった若干の苦情を含む声があがっていた。一年の面接指導経験が、次年度以降の面接指導に生かされ、より充実されることを期待したい。

「キャリアサポート課は教育学部に厳しい」「企業に行きたいのなら、なぜ教育学部に行ったのと言われて、辛かった」といった声は、残念ながら毎年聞かれるものであ

る。教育学部生の中でも、企業就職希望者はキャリアサポート課を全面的に頼り、公務員の教職・保育職就職希望者は日常的にはほとんど接点を持たない、しかし私立学校・園の就職窓口となるとキャリアサポート課である、といった状況が両者の摩擦を生んでいるように思える。改善の方向を探りたい。

第3期生の回答は、調査時期が他の2期に比べ1カ月以上早く、まだ就職活動の生々しさが残るが10月であったためか、就職支援に対する要望がほとんどであった。それらの内から、今後の改善につながる要望、並びに取り組むべき課題についてあげておきたい。

- ①履歴書や志望理由書、面接カードなど、就職関連書類の書き方指導の徹底
- ②公務員偏重の指導体制の見直し
- ③私立校園や企業就職者への細やかな指導と情報収集

Table 4 就職支援に関する主な感想・要望の卒業期比較（数字は実数）

就職活動についての主な感想と要望	第1期生	第2期生	第3期生
教育学部の就職支援体制全般について	28	32	65
・早期からの他県出身者を含めた支援を。 (他県の情報が少ない。先輩情報が少ない)	13	6	12
・私立園や企業就職者への積極的な支援を。	2	7	13
・二次対策や面接指導などのさらなる充実を。	8	9	22
・親身な指導を卒業後も。	5	2	3
・教育学部の就職支援は手厚いと感じた。		3	4
・広い視野が持てる指導をしてほしい。		2	2
・小論対策や筆記試験対策の強化を。		3	6
・先輩との日常的な交流の場がほしい。			3
学部教員の就職支援について	22	9	13
・熱心な指導に満足。	9	5	11
・教員による指導の差が大きくて不満足。 (もっと相談に乗ってほしかった)	13	4	2
キャリアサポート課の就職支援について	19	7	9
・丁寧な指導で満足。	3		3
・企業用ばかりでなく教職用のサポートもしてほしい。	5	2	2
・キャリアサポは高圧的で、行き辛い。	11	3	2
・教育学部生の企業就職に厳しい。		2	
・キャリアサポと学生との連絡方法の改善を。			2
その他	2	5	14
・自分で調べて、自分で動くしかないことを学んだ。	1	1	2
・辛かったけど、周囲の励ましで頑張れた。達成感。		2	3
・大変。辛い。	1	1	3
・お盆など休校期間の連絡方法を改善してほしい。		1	
・もっと早くから、自分から進んで行動すべきだった。			2
・自分のためになることが多く、成長した。			4

- ④県内未受験市町村の採用試験情報の収集・蓄積
- ⑤県外就職情報の収集・蓄積
- ⑥筆記・小論・実技・面接等の指導のさらなる充実

加えて、「広い視野を育てる就職指導」も望まれている。一考したい。

4. まとめと今後の課題

これまで述べてきたように、手探り状態で進めてきた教育学部生への就職支援活動は、その成果と学生の満足度において、当初の予想を上回る結果を残すことができたと言えよう。しかしながら、改善すべき課題や要望等はまだまだ多数残されている。学生一人ひとりの希望に叶った就職支援を推進して行くためには、今回さらに明らかになった課題と要望の一つ一つに、これまで以上に誠実に対処していく必要がある。関連部署における検討と対策を望みたい。そして、教員集団としては、就職支援に関する情報交換を密にし、教員間の温度差をさらに小さくするとともに、点ではなくて面で、早期から学生を支援する体制の構築を目指していきたいと考えている。

調査にご協力いただいた平成 22 年度教育学部第 1 期卒業生の皆さん、平成 23 年度教育学部第 2 期卒業生の皆さん、平成 24 年度教育学部第 3 期卒業予定の皆さんに、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。行く末の幸多からんことを祈念しています。

■引用文献

-
- ・石橋尚子 2012 教育学部就職支援活動に関する満足度調査—第 1 期生を対象に— 椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 5 209-219.